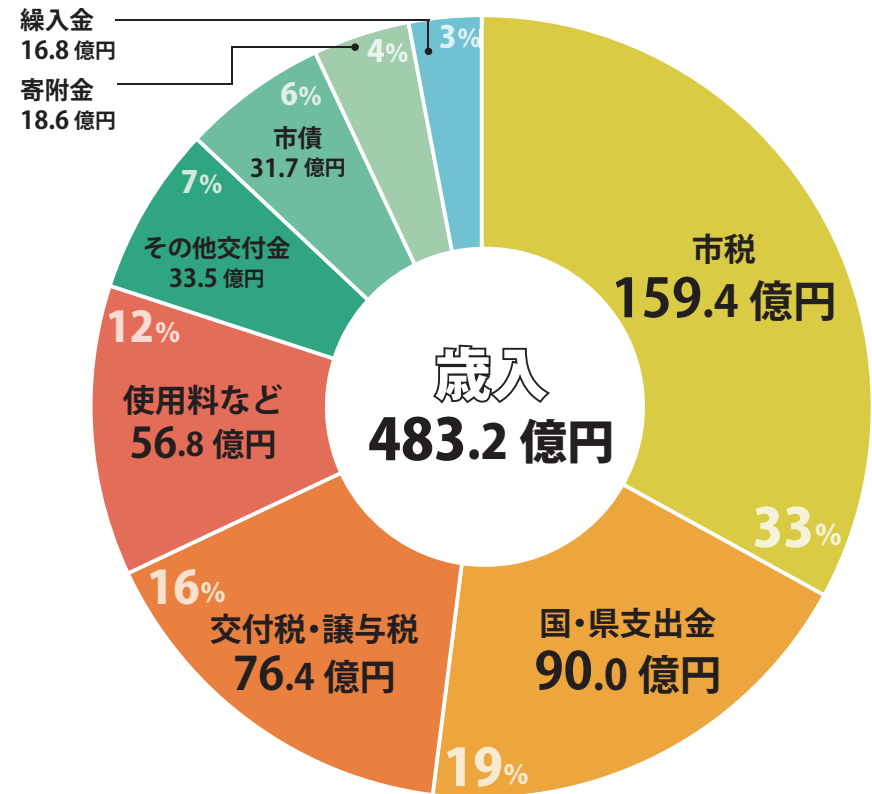


一般会計 財政状況

問い合わせ先
財政課 28-6007



歳入の根幹である市税は、国の経済対策で実施された定額減税の影響により、前年度から約5億1900万円減少しました。また、前年度に行った「減債基金の繰入による市債の繰上償還」を令和6年度は行わなかったため、繰入金が約13億6500万円減少しました。

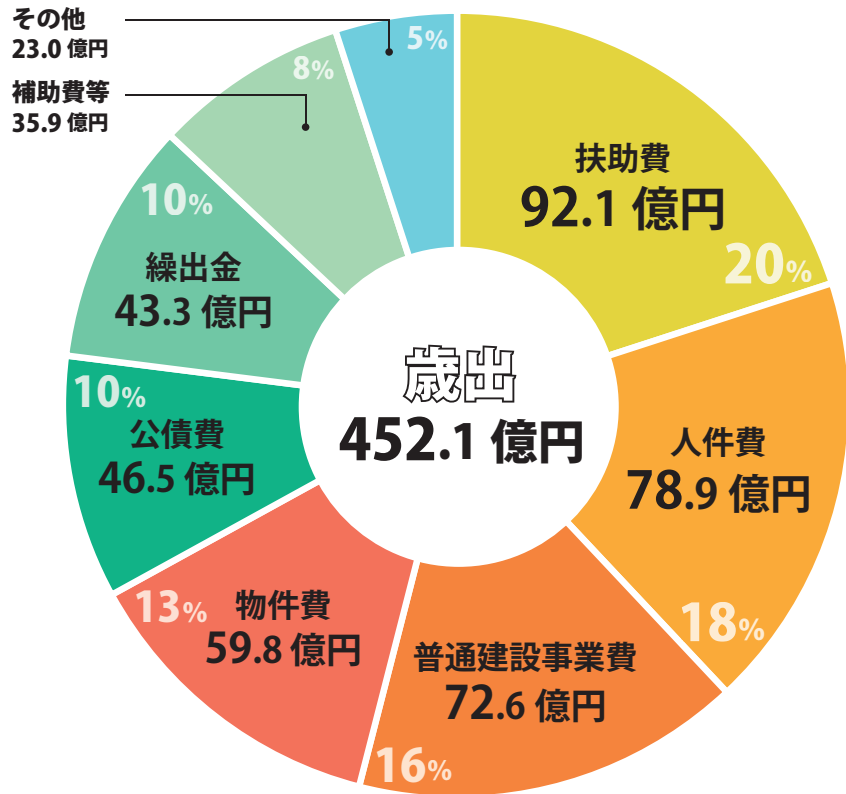
一方で、国税収入の増加に伴い、普通交付税などの地方交付税が約3億600万円増加しました。また、定額減税による市税の減収を補うために、地方特例交付金が約3億5500万円増加しました。加えて、後述する普通建設事業の財源とするため、市債の発行額が約19億600万円増加しました。

これらにより、歳入総額は前年度から13億4549万円（2.9%）増え、483億2428万円になりました。

市では毎年2回、市民の皆さまに納めていただいた税金や国・県からの補助金などが、どのように使われたのかをお知らせするために、財政状況を公表しています。

今回は、令和6年度末における歳入歳出予算の執行状況と、令和6年度中に実施した主な事業の実施状況をお知らせします。

市税減収も歳入は増加
歳入 483億2千万円



普通建設事業費が増加
歳出 452億1千万円

小中学校の体育館における熱中症対策や避難所機能強化のために、行った空調設備工事などにより、普通建設事業費が前年度から約29億2100万円増加しました。また、人事院勧告などにより、人件費が約6億1100万円増加しました。

一方で、前述のとおり市債の繰上償還を行わなかったことから、公債費は約20億4200万円減少しました。

これらにより、歳出総額は前年度から20億6946万円（4.8%）増え、452億799万円になりました。

良好な財政状況を維持
実質収支 27億2千万円

歳入から歳出を差し引いた形式収支は、31億1629万円の黒字でした。これから令和7年度に繰り越すべき財源を除いた実質収支（決算剰余）は、27億2186万円になりました。

このように、本市の財政は引き続き健全な状態を保っています。今後も、市民の皆さまの暮らしを支えるため、効率的で持続可能な財政運営に努めてまいります。

年度末 基金残高

財政の変動に備える財政調整基金の年度末残高は65億3019万円で、前年から2億562万円増加しました。また、公共施設の長寿命化や改修などに使われる公共施設等総合管理基金などを含めた特定目的基金の年度末残高は、前年度から1億1783万円減少し、80億7533万円でした。

財政調整基金	65.3 億円
減債基金	5.6 億円
（特定目的基金）	
公共施設等総合管理基金	13.9 億円
地域医療再生基金	15.0 億円
合併振興基金	33.9 億円
その他	18.0 億円

令和6年度重点事業

学校給食費・保育園等副食費無償化事業 3億2447万円

令和6年度も学校給食費や保育園などの副食費の無償化を継続しました。また、食物アレルギーなどで弁当を持参する家庭には、給食費や副食費に相当する額を支給しました。

※ 22・23 ページに関連記事



教育保育施設等整備事業 21億7340万円

保護者が安心して児童生徒を預けられる環境を整備するために、学校や園の改修工事や空調・照明設備工事などを行いました。

※ 23 ページに関連記事



屋内運動場空調設備工事(新宮小・中学校)

社会資本整備総合交付金事業 2億9989万円

安心・安全な生活を支える道路環境を整備するために、市道・下具定線の法面補修工事のほか、通学路路面標示工事や舗装修繕工事などを行いました。



通学路路面標示工事(川之江小学校前)

住民税非課税世帯等臨時特別給付事業 11億4943万円

エネルギーや食料品などの価格上昇による影響が大きい低所得世帯に、支援金を給付しました。また、定額減税しきれない納税者には、不足分を補う調整給付金を給付しました。



ケーブルテレビ光化促進事業 5570万円

災害時にも安定して情報の受け取りや発信ができるように、山間部にケーブルテレビの光回線を敷設し、高速インターネット環境を整備しました。



市発足20周年記念事業 1億5667万円

市民の皆さまと共に節目の年を祝い、地域のつながりを更に深めるために、記念式典や日本の紙の博覧会、南極観測船しらせ寄港イベントなど、多彩な事業を市内各地で実施しました。



南極観測船「しらせ」